



NICHINAN SPARKLING COAST

日南海岸きらめきライン

住んでよし・訪れてよし 魅力ある日南海岸

宮崎市街から日南海岸沿いを県南へ続く青い空や海を背景に、亜熱帯植物がつくり出す美しい風景が広がる日南海岸国定公園を中心としたルート。毎年春に開催される「ぐるっと青島フラワーフェスタ」や、南郷の「ジャカランダまちづくり」等、花と緑のもてなしが魅力です。また、国の特別天然記念物の野生馬が生息する都井岬、青島神社・鶴戸神宮・潮嶽神社に代表される神話ゆかりの地、江戸時代の町並みが残る飫肥城下町等、この地域固有の風景が楽しめます。この地の最大の魅力は地域の人とのふれあい。訪いたら地域の人に声をかけてみると旅の楽しみ方が一つ加わるかも…。



活動のご紹介

うつくしの道づくり

花で地域を結ぶ一斉活動と道守活動



花で地域を結ぶ一斉活動として各地で多数の市民・町民が参加して植栽活動を展開しています。

また、日南海岸きらめきラインのパートナーシップが多数加入されている「道守みやざき会議」は、毎年10月を「宮崎県内道守一斉活動月間」と位置づけ、道守活動を展開しています。

雑草除去、雑木除伐、修景木の維持管理



多様な団体と連携しながら、通年にわたり沿道の雑草除去、雑木除伐、コバノセンナ剪定、補植、苗づくり等を実施しています。

パートナーの連携・協働の強化

日本風景街道大学 宮崎大学で開講

多様な担い手が共に学ぶ場として、全国で活躍する有識者・専門家等を講師陣に迎え、「日本風景街道大学」を宮崎大学にて実施しています。

本大学のきっかけにより、広域的なネットワークを広げ、一層の交流・情報交換を図りながら、風景街道活動の全国的なレベルでの発展をめざしています。

また、行政職員を横断的につなぎ、共にバイウェイの使い方などを学ぶ「日南海岸地域のバイウェイあり方勉強会」も継続的に開催するなど、更なる連携の強化が期待されています。



花旅 365



咲き誇る花々によってまちを元氣にするための企画で、令和元年度に国交省のガーデンツーリズム登録を受けています。フラワーマンス、写真コンテスト、スタンプラリーと多彩なイベントが運営されています。



日南海岸サイクルライン



サイクリング休憩所
共通ロゴマーク



サイクリング休憩所
共通ロゴマーク

日南海岸サイクルラインづくり

日南海岸きらめきラインの道は、温暖な気候に、美しい風景が広がり、年間を通じてサイクリングを楽しむには最適です。

平成27年度には日南海岸サイクルツーリズムによる賑わい創出を目的として「日南海岸サイクルツーリズム協議会」が発足し、ツーリスト受け入れ環境の充実や自転車通行空間の整備

など、ハード・ソフト両面での取り組みが進んでいます。

また、いるか岬とるば等にて、サイクリストを対象としたベンチ、サイクルハンガー、自販機、露店等の利便施設の設置・管理を実施しています。その他にも、サイクルツーリズム推進のためのイベント企画や協働の場づくりとして「日南海岸自転車談議所」を開催するなど、様々な取り組みを展開しています。



自販機の設置
(道路協力団体制度を活用)



サイクリングコースマップ



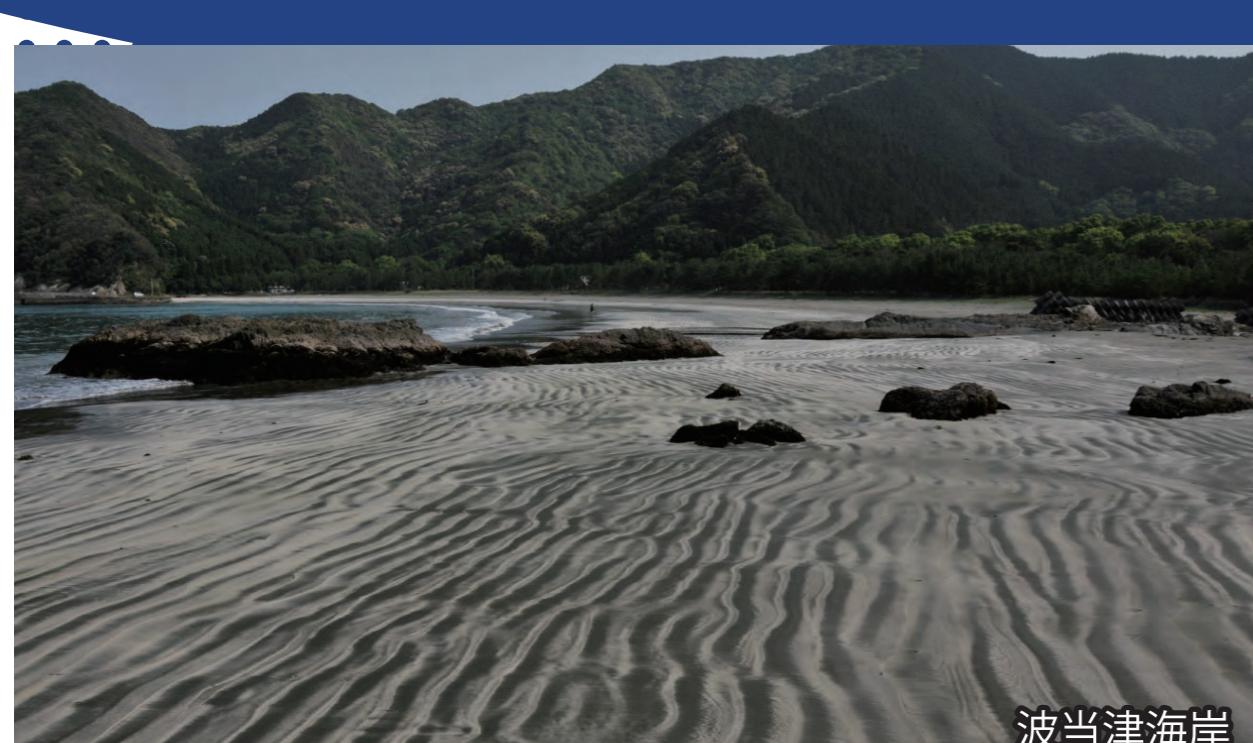
NIPPO SEASHORE ROAD

日豊海岸シーニック・バイウェイ



浦々のふれあいでみんな元気！ 蒲江・北浦大漁海道

大分県佐伯市と宮崎県延岡市を結ぶ国道388号を中心に、複数の県道等にまたがるルート。海道の中心となる日豊海岸は、風光明媚なリアス式海岸が続き、緑豊かな山々と優しく人を迎える浦々等、多彩な自然と人々が息づく地域と言えます。また元猿海岸・下阿蘇ビーチ等、海を楽しむスポットが点在。ことにブルーツーリズムと食による地域づくりが盛んで、島や沿岸部に滞在し、ゆっくりとした休暇を過ごしたい方々におすすめ。豊かな海の恵みを楽しめる観光キャンペーン「東九州伊勢えび海道」(9月~11月)で、ぜひとも伊勢えびをたらふく召し上がり。

日豊海岸
シニック・バイウェイ

活動のご紹介

ツール・ド・日豊 沿道より応援



九州最東端のまち大分県佐伯市及び宮崎県北部の延岡市の県境を越えた2市を舞台として、スピード競技ではなくゆったりと海、山、川の景観や様々な地域の魅力を楽しむサイクルイベントです。

煌めく海に映えるリアス海岸の山々の緑が、風光明媚な景色を織りなし、燐燐と降り注ぐ光と澄んだ空気は、訪れるサイクリストに最高の開放感を約束します。また、葛原海岸をはじめとした自然景観、歴史・文化、穏やかな気候と豊かな自然に育まれた地元グルメ、そしてそれぞれの地域に暮らす人々の温かいおもてなしで皆様をお迎えします。



下阿蘇海岸の清掃活動の実施

快水浴場百選の特選に選ばれている「下阿蘇ビーチ」において、海水浴シーズンの前に地域住民と一緒に戦前から継続的に清掃活動を実施しています。下阿蘇海岸は平成18年に環境省が選定した快水浴百選に選ばれ、水質と環境への取組が評価され共に最高得点で評価されています。

地域の資産「おしなぎい(もったいない)」の発掘と有効利用



【あまべ渡世大学】

本大学は、蒲江全体をキャンパスとした「体感・学び」の場。講師陣は地元の人々が務め、学生は県内外から訪れます。

来訪者はもちろん、地元の人々からも知られていない歴史、文化資源・自然資源等、おしなぎい魅力の再確認を図っています。

近年は、波静かな入津湾に浮かぶ筏「渚の公園」が設置され、魚釣り体験や伝統漁法のカゴ漁体験ができるようになるなど、蒲江の地域資源を活かした体験・学びのメニューがさらに充実しました。

入津湾に浮かぶ筏
「渚の公園」

県境を越えた地域連携と情報発信



日豊海岸岩ガキまつりと 東九州伊勢えび海道

風土が似ており、昔から水産業を通じて「ヒトとモノ」の交流があった日豊海岸沿岸において、春から夏は旬の「岩ガキ」(日向市、門川町、延岡市、佐伯市)をターゲットに、秋は「伊勢えび」(延岡市、佐伯市)をメインにグルメの取組を実施。春、夏、秋と途切れることなく旬の「岩ガキ」と「伊勢えび」のグルメざんまい。リピーターが増加傾向です。

本ルート沿線にある、他に負けない豊かな自然の魅力を十分に発揮していくためには、個別に活動している人どうしが連携を図り、「人、モノ、情報」が道路を通じて循環していく環境づくりを創出することが大切です。

様々な方法による情報発信



日豊海岸ならではの魅力を凝縮したプロモーションビデオを作成・公開しています。また、海道だよりの作成や各種HPでの情報発信などを行っています。

神話伝承ゆかりの地に多くの人に訪れてもらい、我々地域がもてなすことによって満足してもらいたい、また日豊海岸シニック・バイウェイに行ってみたいと思ってもらえるよう活動に励んでいます。

日豊海岸シニック・バイウェイ研究会
会長 橋本 正恵さん



NAGASAKI SUNSET HIGHWAY

ながさきサンセットロード



橋でつながる教会と歴史の道

長崎県西海岸沿線の松浦市、平戸市、佐世保市、西海市等を通って長崎市に至るルート。本土最西端の海岸線、総延長 280 kmを北から南まで走るために、どこからでも西の海に沈む美しい夕日や西海橋・平戸大橋など、橋の造形美を存分に楽しむことが出来ます。また、数々の教会が点在しキリスト教の伝統を色濃く受け継ぐ「ながさき巡礼」ルートとも重なり、「夕日と橋と教会が織りなす美しい風景と海外の交流文化」が、目に、こころに広がります。また平戸ひらめ・松浦のふぐ・長崎のからすみはもちろん、佐世保バーガー・長崎ちゃんぽん等、さまざまなグルメも見逃せません。



活動のご紹介

高校生フォトツアー＆写真作品展



高校生を招待し、ながさきサンセットロードの関係者が随行して、バスツアーを開催しています。
今まで情報を届けにくかった若年層に対して、ルートの知名度向上を図ることを目的に開催しており、バスでルート沿線を行なうながら、みどころや各ポイントを紹介しています。

ロゴを活用した 広報活動の展開

広報活動の一環として、ルートのロゴを用いた案内標識の設置や、ステッカー・マグネット・マスクシール等の製作を行い、ルートの認知度向上を図っています。



フォトコンテストの実施



地域の魅力を発信するとともに、写真を撮りにルートに訪れてもらうことを目的として、フォトコンテストを開催しています。
プロの写真家にご意見を聴きながら、協議会が審査しています。
表彰者を招待し、推進協議会の幹事会メンバー参加のもと、表彰式を開催しています。

眺望スポットの環境整備や 沿道の魅力発信



ルート沿いの眺望スポットを情報提供していただき、防草シートや簡易パーキングの整備を行っています。また、来訪者にルートの魅力を発信し、回遊してもらえるよう、みどころマップ等の製作やフォトコンテストの開催を行っています。

このような整備を図ることで、少しでもサンセットロードの景観形成に貢献し、「サンセットロード」という名称・ルートが世間に定着し、サンセットロードを利用した活動が活発になり、地域が活性化することを期待しております。

長崎県 土木部 道路維持課

みどころマップ



『ながさきサンセットロードの日』 ～一斉掃除イベントを開催～



ルートの登録日である 11 月 26 日を『ながさきサンセットロードの日』と制定し、南は長崎地区から北は松浦・平戸地区までの各地域で一斉清掃を行うイベントを毎年開催しています。

近年は島原半島うみやま街道と一斉清掃イベントを同時開催したり、長崎文化放送(NCC)が企画する「NEXT ながさき☆ごみゼロプロジェクト」と連携するなど、規模拡大による一層の PR 効果、ルートの認知度向上に繋げています。

今後、ルートが一丸となった一斉清掃の回を重ねていき、より多くの参加者数が増やしていくながら、「ながさきサンセットロード」の一大イベントとして位置づけられればと思っています。



ながさきサンセットロード振興会
村田 静則さん



KITAKYUSHU HOSPITALITY ROADS

北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”



歴史、文化や美しい景色を“ゆっくり”味わう

江戸時代の街道の面影が残る木屋瀬・黒崎・小倉を通る長崎街道や門司往還、大正ロマン漂う門司港レトロまでの沿線を対象とするルート。古くから本州やアジアの玄関口として多くの人が行き交い、にぎわい、栄えた歴史が今も脈打っています。徒歩で散策でき、歴史、文化や美しい風景を“ゆっくり”と味わえるのが魅力です。

見どころは、3つの宿場町・城下町や、その間にある史跡・旧跡、煉瓦建物や官営八幡製鐵所発祥の地にまつわる近代化産業遺産、関門海峡や皿倉山からの景色・夜景等々。これらの地域資源を活用したイベントや伝統ある祭りなども盛んです。



活動のご紹介

風景街道 DAYS



北九州風景街道の魅力を発信する「風景街道 DAYS」を開催しています。風景街道を幅広い世代の人に知つてもらいため、普及振興していくことを目的として、参加者が自身の「足で感じ」「目で見て」「知識を深める」イベントとなっています。



北九州風景街道フォト&アートコンテスト

北九州風景街道のルート沿線にある美しい風景、自然、文化等をより多くの方に知つていただくため、フォト&スケッチコンテストを実施しています。令和5年度は、「みらいへつなぐ北九州風景街道」をテーマに、たくさんの素敵な作品の応募がありました。

また、入賞作品を掲載したオリジナルカレンダーを制作するなど、風景街道の更なる魅力発信に取り組んでいます。



グランプリ作品（アート部門）



グランプリ作品（フォト部門）



卓上カレンダー

北九州風景街道 キッズ体験



子どもたちが、地域の祭りを通じて風景街道の歴史文化等に触れる「風景街道キッズ体験」を開催しています。令和4年度は、小学3年生～6年生を対象に実施し、歴史ふれあい館の見学や講和、紙灯籠作り体験などを行いました。今後も引き続き、若い世代への歴史・文化の継承を行っていきます。



北九州風景街道「ゆっくり歩き帖」

推進協議会の会員が協力して、まちあるきマップ「ゆっくり歩き帖」を作成しています。ルート沿線のおすすめ撮影スポットや立ち寄りスポットなどを紹介しています。

また、入賞作品を掲載したオリジナルカレンダーを制作するなど、風景街道の更なる魅力発信に取り組んでいます。



会員相互の交流・連携

会員の集まりとして総会・分科会等を開催しています。さらに会員相互の情報交換のために、皆様の活動や推進協議会の取り組みを紹介した「かわらばん」を年1回発行しています。

このような交流・連携は、風景街道活動の大きな柱となっています。



かわらばん



MUNAKATA HISTORIC BYWAYS

ちょっとよりみち唐津街道むなかた

旧唐津街道になつかしいまち並みが印象的

筑前二十一宿の一つ「赤間宿」、緑と昔ながらの民家が美しく調和する「原町」を約 5 kmで結ぶ「旧唐津街道」ルート。辻井戸や造り酒屋をはじめとする大きな商家等、江戸時代の建物が続く「赤間宿」地区、「まちづくり協定」に基づいた建物の修景が行われ、古民家の景観が保たれた「原町」地区と、まさに昔の風情がこよなく残っており、ゆっくりと散策しながら、まちの魅力を楽しむことができます。また双方とも美術が盛んで、個人美術館やギャラリーが街道沿いに点在。「赤馬館周年祭（12月）」、「北斗の水くみイルミネーション（12月）」、「赤間宿まつり（2月）」等、様々なイベント多彩。



赤間宿の町並み



原町の町並み

九州大道芸まつり in 宗像（原町）

FUKUOKA
福岡

活動のご紹介

まちなみの保全活動



旧唐津街道には、田園風景に囲まれた昔ながらのまちなみが残っています。このまちなみを後世に継承するため、地域ルールや古民家の活用方法を提案し、多面的な保全活動を行っています。



修景事業

「赤馬館周年祭」（12月）・「北斗の水くみイルミネーション」（12月）等、地域のイベントと連携した活動を行っています。



赤間宿まつり



北斗の水くみイルミネーション



赤間 music フェス

散策のしくみづくり



まちなみ紹介案内板

街道本来の機能である人が歩いて行き交う場の再生を目指して、観光ボランティアによるガイド活動や案内板・誘導サインを設置する等、訪れる人が楽しみながら散策できる仕組みづくりに取り組んでいます。

また、「オリジナルバック」の製作や、市内を巡る「宗像周遊マップ」の増刷・配布、観光拠点施設「赤馬館」での街道紹介など、ルートと観光施設等との連携も図っています。



オリジナルバッグ

唐津街道 赤間宿 ← →
Karatsu Road Akamashuku

誘導サイン

宗像周遊マップ

当ルートの拠点である赤間・原町においては、九州風景街道に登録される以前からまちづくり活動を行ってきたが、「ちょっとよりみち唐津街道むなかた」として九州風景街道に登録されたことで取組みの幅が広がり、交流人口も増えてきた。今後は、赤間・原町がつながる活動を展開し、両地域に賑わいができるような取組みを行っていきたい。

唐津街道むなかた
推進協議会 会長
梅田芳徳さん

唐津街道サミット

唐津街道沿いの旧宿場町で、案内ガイドや町並み保存などのまちづくりに取り組む地域団体が、自主的に寄り合い、自分たちの地域や活動の紹介、お互いの助ける情報の交換、将来に向けた活動の協力・連携を目的として、平成 20 年度から開催されています。





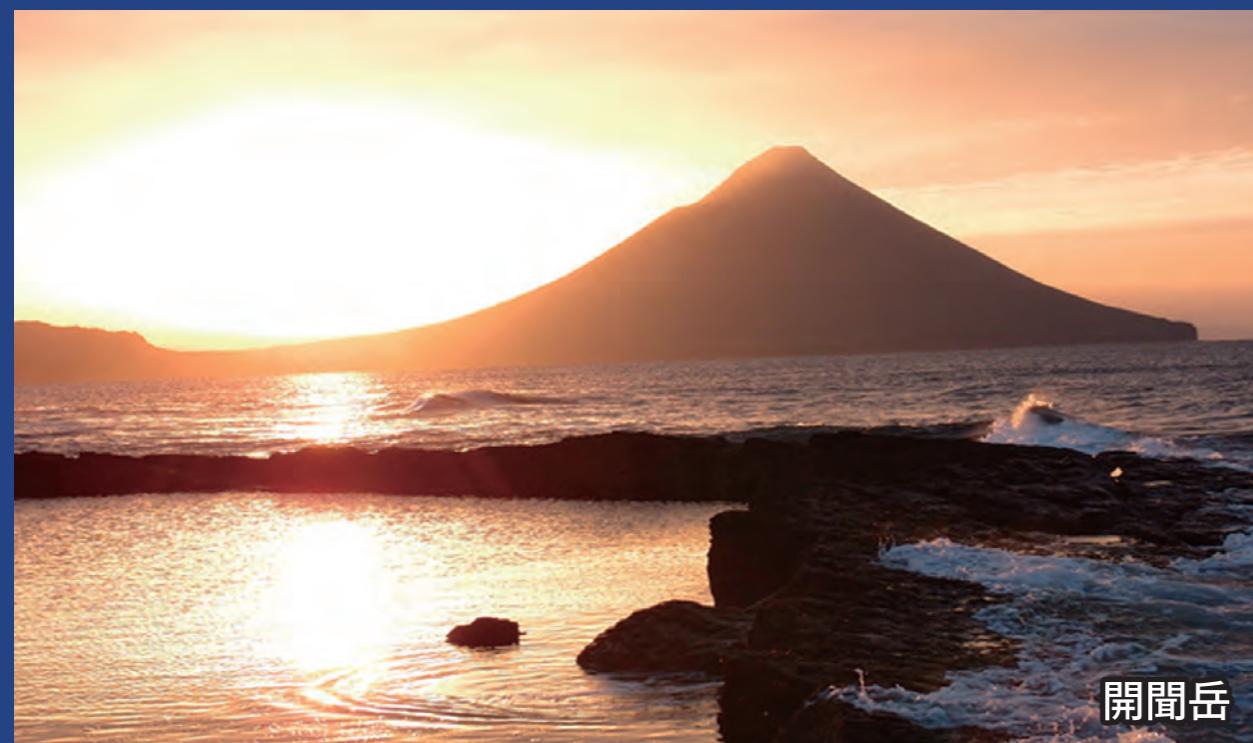
KAGOSHIMA SCENIC BYWAYS

かごしま風景街道

道路を軸にした「鹿児島らしい風景」

鹿児島のシンボル桜島から、錦江湾沿いの薩摩半島を巡り、南さつま市を結び、「桜島ルート」「鹿児島ルート」「指宿ルート」「南薩ルート」の4ブロックで構成。

これらの地域には、勇壮な桜島と開聞岳を代表とする山々と海岸が織りなす風景、西郷隆盛など明治維新ゆかりの史跡が豊富な鹿児島市街、武家屋敷群や戦争遺産・文学遺産の知覧、指宿の天然蒸し風呂を代表とする温泉群、吹上浜から望む東シナ海に沈む夕日等、まさに必見です。そして芋焼酎はもちろん、さつま揚げ・きびなご・黒豚・カツオ等、おいしいグルメも盛りだくさん。



活動のご紹介

地域の歴史的景観についての勉強会



「まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会」では、地域に残る歴史的景観について学び、保存や活性化について考える取り組みを実施しています。史跡巡りのまち歩きや講座の開催をはじめ、子どもから大人向けまで、地域の文化・歴史を伝えるための様々な活動を開催しています。

風景街道の取組みを幅広い年代の方々にも体感していただこうと、小学生から高校生まで児童や生徒さんたちといっしょに、まち歩きと意見交換を行いました。みなさん、それぞれに想いがあつて、道の楽しみ方と景観を守ることの大切さを共有していました。風景街道は、みんなでつくりあげているものだと実感しました。

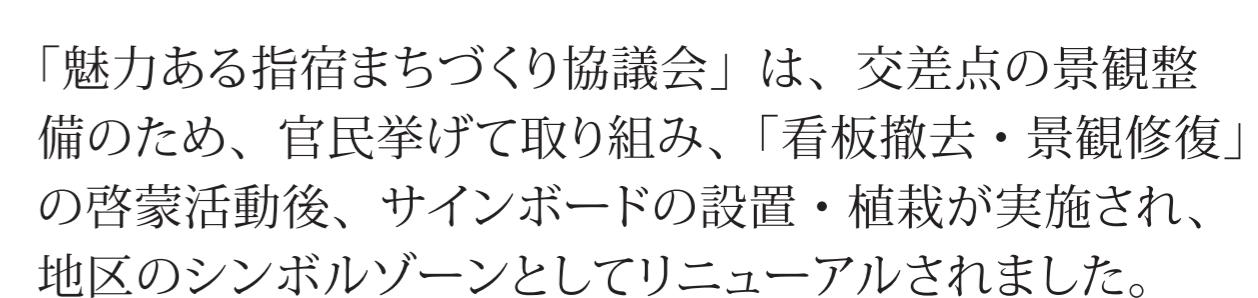
NPO法人かごしま探検の会 代表理事 東川 隆太郎さん

バスツアー・まちあるきによる周知啓蒙活動

「かごしま風景街道」の知名度向上を目的として、バスツアーを開催しています。バスツアーでは、バスのみを利用するのではなく、途中で「まちあるき」を行うことによって身の回りにある地域資源の魅力を再認識することができます。近隣地であったとしても、実はよく知らなかつたという驚きを提供することで、地域へのさらなる興味関心や愛着を生み出します。



好ましくない風景の改善



「魅力ある指宿まちづくり協議会」は、交差点の景観整備のため、官民挙げて取り組み、「看板撤去・景観修復」の啓蒙活動後、サインボードの設置・植栽が実施され、地区のシンボルゾーンとしてリニューアルされました。

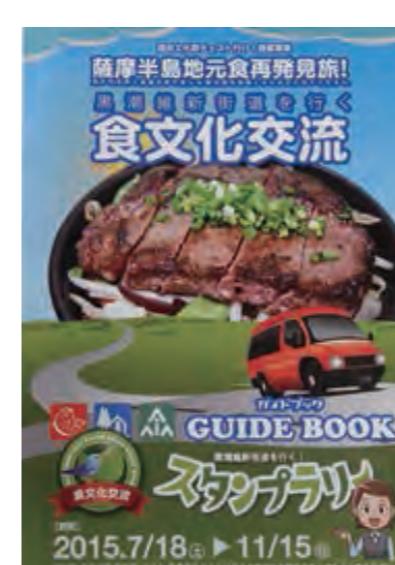
観光地・指宿の風景を守るために、行政・民間団体、そして市民が果たすべき役割を明確化し、乱立した看板撤去に取組みました。無償・自費による全面撤去には、約1年の期間を要しましたが、官民協働の取組みは、それ以降の観光行政の指針となりました。今後もそれぞれの役割の中で、風光明媚な指宿の景観を守り続けたいと考えています。



指宿市役所 観光課 観光企画室 元室長 今柳田 浩一さん

ルートの魅力を知るスタンプラリー

平成27年度の鹿児島国民文化祭および令和5年度の特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の開催期間中に県内外の市民にルートをPRするため、スタンプラリーを実施しました。



ガイドブック

物産センターにて設置

道の駅にて設置





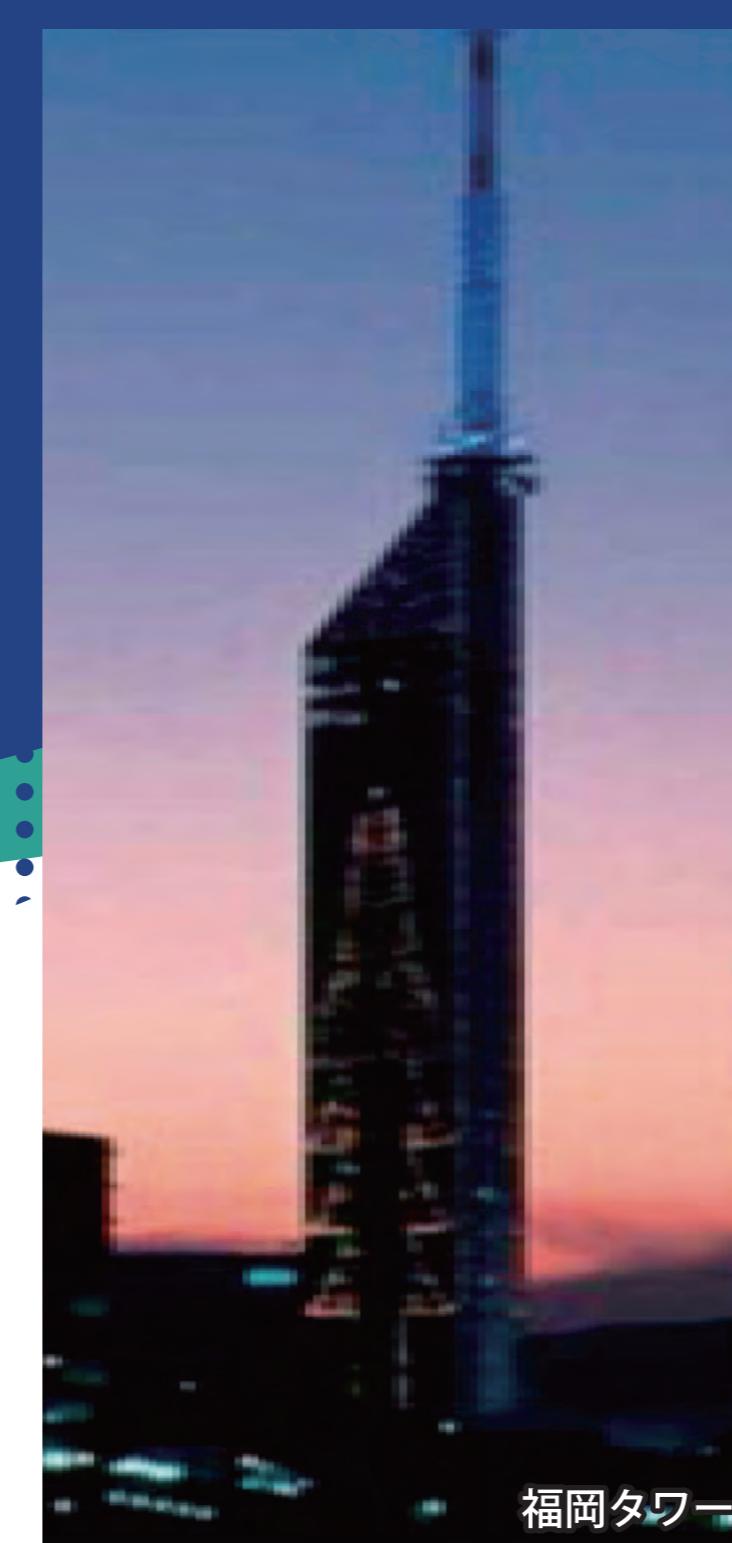
GENKAINADA SCENIC COAST

玄界灘風景街道



都市の楽しさや歴史、大陸とのつながりが、新たな歴史を築いていく ～福岡・糸島・唐津ルート～

大陸文化が玄界灘を経て、日本各地に広がった国際的舞台のルート。車で2時間ほどの距離に、「近代的な都市の楽しさ」「歴史の深み」「個性的な文化」「豊かな自然」があふれています。主に「福岡・博多（福博ゾーン）」、そして「糸島・唐津地区（海浜ゾーン）」が、コントラストな魅力で展開。なかでも一押しは、ショッピングやオフィスビルの博多・天神そして百道。さらに糸島から唐津への街道では、芥屋の大門や二見ヶ浦、鏡山から見下ろす延長5km・100万本の黒松が群生する日本三大松原の一つ虹の松原、七ツ釜等の海岸景観も絶景。さらに伊都国遺跡・名護屋城跡などは歴史ファンも必見。



活動のご紹介

国体道路花いっぱい運動

「緑でつなぐそして人の輪がひろがる」を合い言葉に、国体道路花いっぱい運動としてゴミと放置自転車ゼロ、来街者のマナーアップで快適・安全な道路空間を目指し活動を行っています。福岡市中心部である春吉橋西から警固交差点までの国体道路（国道202号）約2kmに渡り、植栽帯の花植えや清掃活動の実施、マナーアップ啓発活動の実施、協力者や参加者の発掘を行うことにより、国道が抱える課題を改善しつつ、快適で安全な街並みの実現に向けた活動を行っています。



国体道路（国道202号）

歩く唐津街道の旅

「歩く唐津街道の旅」は、2009年の出立以来2024年で「15周年」を迎えました!毎月1回の街道歩きで、今年も16周年目の旅に挑戦! 唐津街道(唐津~大里)全10行程(約140km)および、番外編では長崎街道等他ルートとの交流歩きにチャレンジしています!! R6.9までに開催数:180回、延べ参加人数:約4,700人の参加をいただきました!さて、あなたの「歩く旅」探索の成果は!!!

テーマは「宿場との交流と街道遺産の発見の旅 歩いて見て感じる」です。



多彩な参加グッズ



日本三大松原「虹の松原」の保全活動

唐津湾沿岸約4.5kmにわたって広がるクロマツの林で、貴重な「宝」である虹の松原を白砂青松の姿で後世に引き継ぐため、地域・企業・行政が一体となって、再生・保全のため松葉かきを行っています。これらの取組は、自らの地域資源を守り育みながら磨き上げ、磨き上げた地域資源で来訪者をもてなすことや、子供達の参加を得るなど「人材育成等」に貢献しています。また活動をPRするマスコットキャラクター「虹松まもるくん」も誕生し、観光イベント等を通じ「松原の観光情報」「再生・保全活動」の紹介を行うことで、地域の活性化にも寄与しています。



虹の松原

広報活動の更なる充実

令和2年度から、福岡県北九州市～佐賀県唐津市までの旧唐津街道沿いの各宿場間に、13ヶ所の統一看板を設置しています。(令和6年5月現在)。

令和4年度には、手づくり郷土賞(国土交通大臣)を受賞しました。



唐津街道標識設置活動



YAMANAMI HIGHLAND PARKWAY

九州横断の道 やまなみハイウェイ

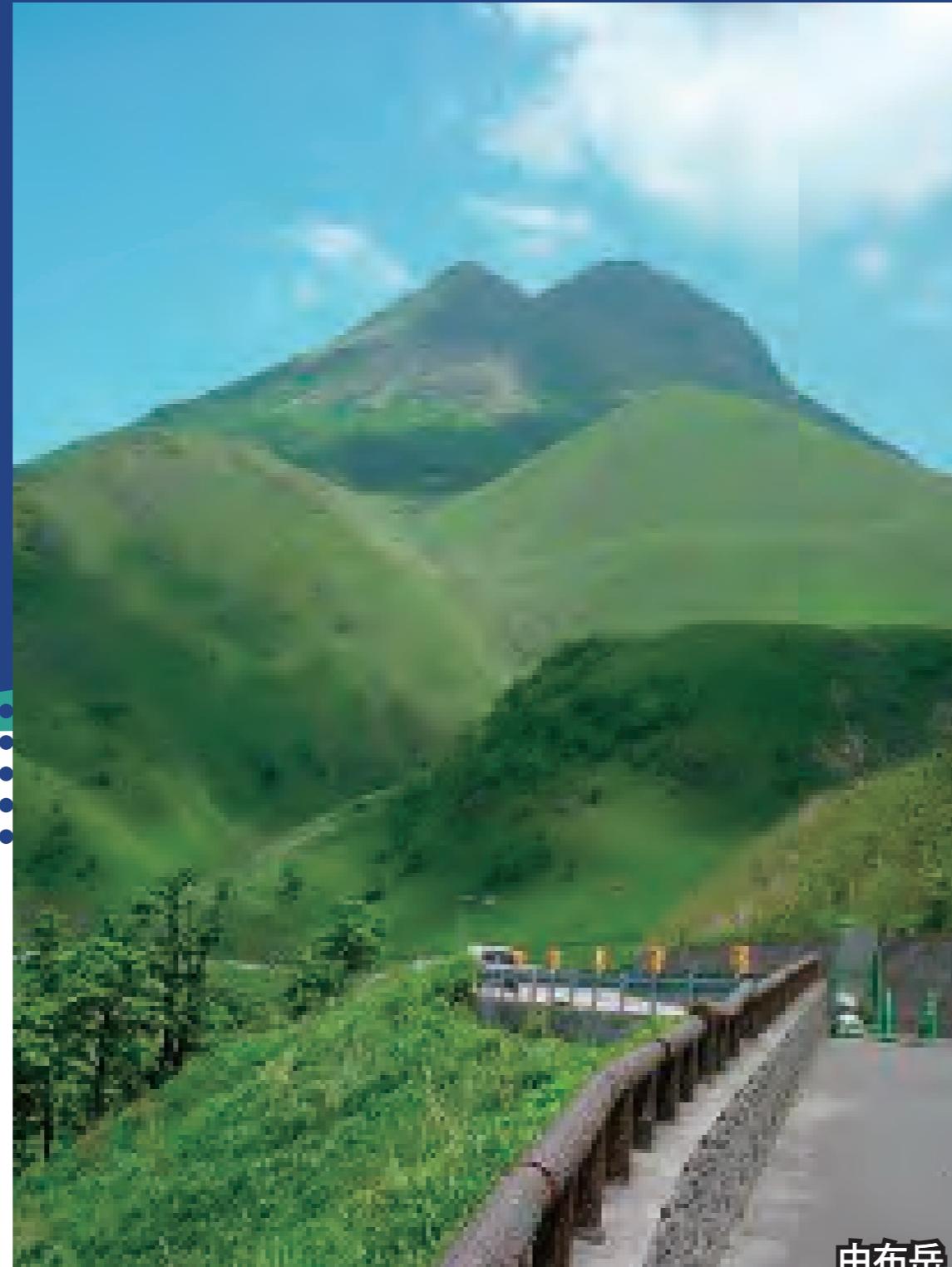


美しい日本の風景を取り戻す取組み

やまなみハイウェイ沿線は、「阿蘇くじゅう国立公園」に指定されており、城島高原・飯田高原等の大草原が広がり、岡城祉までの国道442号で結ばれた魅力的な風景のルート。別府温泉・由布院温泉・長湯温泉等、数々の温泉郷や絶景スポットで有名な九酔渓・九重“夢”大吊橋、そして登山客に人気のくじゅう連山等、雄大な自然の連続。また「エコツーリズム」「温泉ツーリズム」「フォレストツーリズム」、高齢者や弱者の方々をはじめ、誰もが安心して楽しめる「ユニバーサルツーリズム」等、五感を活かした「ゆっくり寄り道ツーリズム」の創出にもご注目下さい。



飯田高原



由布の朝霧



活動のご紹介

阿蘇くじゅうの野焼き



やまなみハイウェイ開通時の美しい景観の復興をめざして、地域の生活と風景の関わりを見つめなおし、景観保存の担い手を育てながら、草原景観をはじめとする風景の保全活動を進めています。九重町では、住民が「野焼き実行委員会」を結成し、野焼きを復活させました。



キッズミュージカル

九州横断の道やまなみハイウェイと沿線市町村の歴史・文化・交流などを県内外に広くPRするために、昭和初期に九州横断道路構想をいち早く提言した油屋熊八の功績を紹介するミュージカル公演を沿線各地や阿蘇や宇和島など、油屋熊八にゆかりのある土地で開催しています。さらに子供が演者をすることで歴史の継承にもつながっています。



ポストカードの作成・パンフレットの作成・HPやインスタでの情報発信

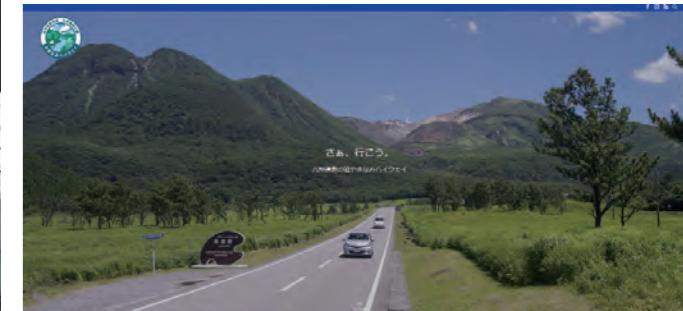
九州横断の道構想を提唱した油屋熊八を紹介するやまなみポストカードを制作しています。ポストカード6枚を550円で販売し、そのうち100円を環境景観保全活動費として活用しています。また、令和6年にはやまなみハイウェイの開通60周年を記念し、野焼きの写真を表紙とした絵葉書も作成しています。



別府、由布、九重、玖珠、竹田の沿線各市町村の景観活動や観光ポイントや特産品さらにまち歩きガイドなどを掲載したパンフレットを制作・配布しています。



やまなみハイウェイの紹介動画や観光スポットをHPやInstagramで紹介しています。



英語版 youtube 動画の制作

九州横断の道やまなみハイウェイ沿線に関する英語版ユーチューブ動画をAPUの留学生と連携し、英語解説付きで5本（別府編／湯布院編／湯平・九重編／久住編／竹田編）制作しています。



やまなみハイウェイ沿線の環境美化活動

やまなみハイウェイ沿線の美しい自然環境・景観を守るために、環境美化活動を実施しています。別府IC周辺や九州横断道路沿線で清掃活動及び花植え活動を行っています。こうした環境美化活動を継続的に展開していくための方策の一つとして、やまなみポストカードの制作・販売の取り組みも始めました。





ASO・KUMAMOTO SCENIC ROADS

九州横断の道 阿蘇くまもと路



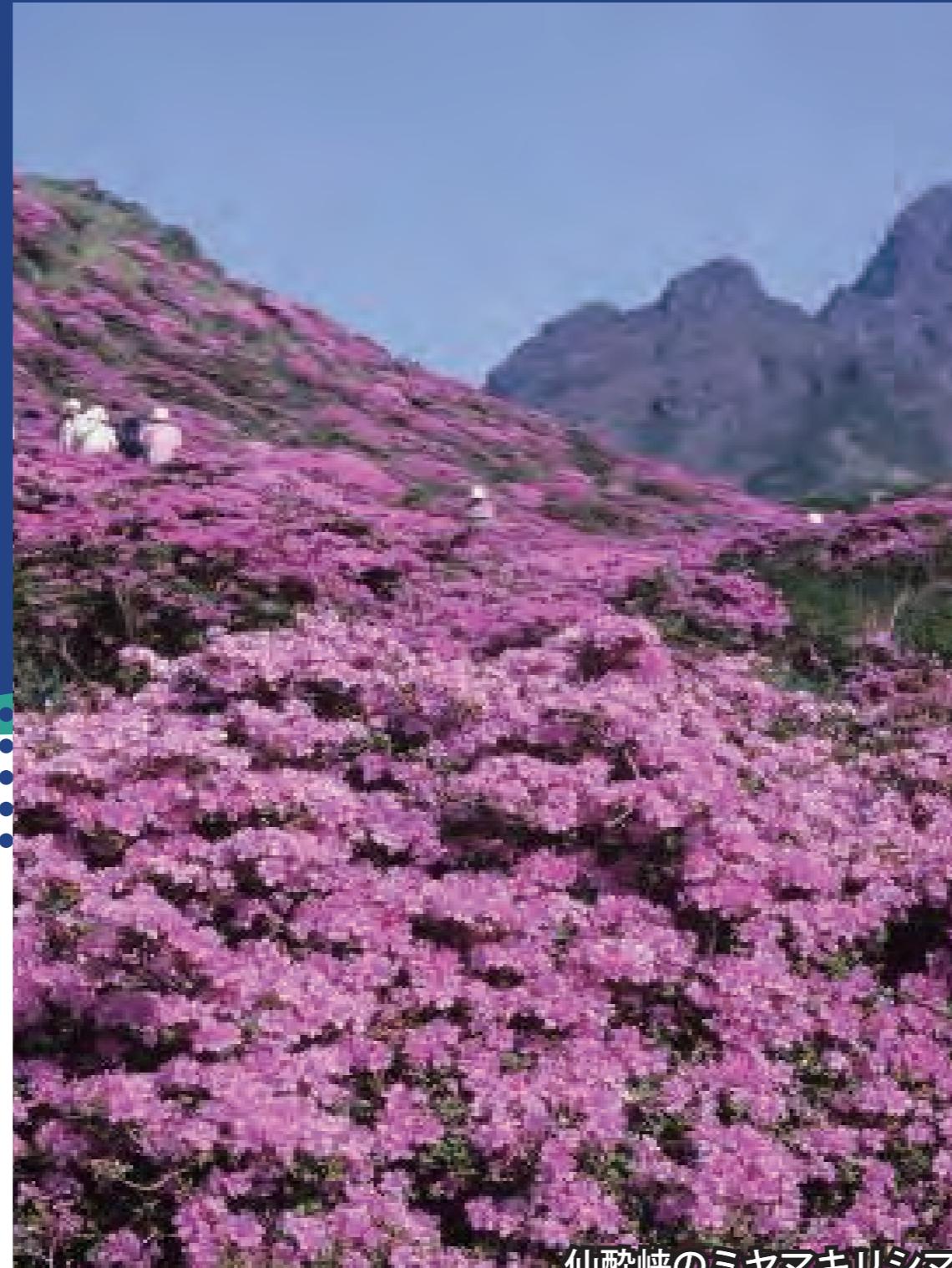
世界一のカルデラ阿蘇を背景に大草原が広がる街道

世界最大のカルデラ火山で有名な阿蘇と築城 400 年、名城熊本城の熊本市街までを結ぶルート。かつて加藤清正が造った「豊後街道」の道筋であり、熊本と大分の鶴崎を結び、江戸時代細川藩の参勤交代路として利用されました。街道のシンボル阿蘇の雄大な自然の風景、ことに大パノラマ「大観峰」「草千里ヶ浜」は、必見の国際観光エリア。

また黒川温泉・内牧温泉・地獄温泉等、良質の温泉郷としても知られ、白川水源等の名水もあり、世界各国からの観光客を魅了しています。本ルートも「九州横断の道 やまなみハイウェイ」同様、「ゆっくり寄り道ツーリズム」の活動がさかん。



米塚（阿蘇市）



仙酔峡のミヤマキリシマ



阿蘇の火祭り



活動のご紹介

野焼き



九州一の観光地阿蘇の景観の魅力は、広大な草原で、千年の昔から、ここに住み牛馬を飼う人々が野焼きを繰り返すことで守られてきました。阿蘇の野焼きは面積 16,457ha、延焼を防ぐ輪地切りの総延長は 540km に及ぶことから、野焼きを実施している団体に集まってもらい野焼きの学習会を開催、ボランティアの育成・指導を実施し、地域の伝統文化である野焼きを次の世代に繋ぎ、訪れる人々を魅了する美しい草原景観を守る取組を実施しています。

九州横断(豊後街道)徒歩の旅



九州横断(豊後街道)徒歩の旅は、大分県鶴崎から熊本県の熊本城までの 31 里、約 125km を 6 泊 7 日かけて歩く旅です。毎年夏休みに行われ令和 5 年度には子どもたち 100 名ほどの現代の参勤交代の武士たちが、旧豊後街道を歩き続けました。

地域資源を活かした寄り道ツアー

誰もが旅を楽しむことのできる「ゆっくり寄り道ツーリズム」の創出を目指しています。近年は、ルート沿線を歩き、その地域の歴史や文化に触れると共に、地域の魅力の掘り起こしを行う寄り道ツアーを開催しています。

やまなみハイウェイつながるひろがるプロジェクト



熊本県と大分県を結ぶ「やまなみハイウェイ」は別府の観光開発に尽力した油屋熊八が 1921 年（昭和 2 年）に構想した「九州大国立公園実現提唱」が原点とされ、構想から約 100 年が経過しました。このやまなみハイウェイ整備経緯を知り、景観を守ってきた先人の凄さに感銘を受け、これから 100 年先を私達はどう描き、繋げていくべきなのかを考える「やまなみハイウェイつながる・ひろがるプロジェクト」が令和 3 年度に発足しました。道守・道の駅・風景街道の 3 者が連携し美しい景観を守るために、九州各地から美化運動参加者が集い「つながる・ひろがる」をスローガンにして美化活動を展開しています。また、やまなみハイウェイに関わる活動を行っている方々が一同に集まり、やまなみハイウェイの未来を語り、連携強化を図る意見交換会なども開催されています。



多様なボランティア活動

道守くまもと会議による花壇づくりや清掃活動、竹田市岡城の石垣の草取り奉仕活動、歴史街道松並木保存活動、瀬の本～長者原のゴミ拾い活動など、ルートエリアの美化活動を展開しています。加えて、近年は令和 2 年 7 月豪雨被災地（芦北町、人吉市、球磨村）における支援活動も行っています。



歴史街道松並木保存活動



竹田市岡城の石垣清掃活動



TOYONOKUNI HISTORY ROAD

豊の国歴史ロマン街道

一小倉・足立山から宇佐の森へ



北九州市小倉北区小倉城下の常盤橋から国道 10 号沿いに南下し、旧中津街道を経て大分県下・宇佐神宮に至るルート。

沿線には、小倉足立山麓の和氣清麻呂公の史跡・妙見宮、古墳時代前期の石塚山古墳や御所ヶ谷神籠石等の古代遺跡、豊前国府跡、豊前国分寺三重塔、戦国期秀吉の軍師黒田官兵衛の居城・中津城、そして幕末・明治の思想家・教育者福澤諭吉の旧居、全国4万余の八幡宮総本宮・宇佐神宮など、多くの歴史・文化・自然が存在。毎年、春と秋に開催の「史跡探訪ウォーク」には、この街道の歴史ロマンを求めて、多くの市民が参加しています。



和氣清麻呂の像



宇佐神宮



中津城

FUKUOKA
福岡

活動のご紹介

「歴史講演会」の開催



2023/12/17

旧豊前国（福岡県東部・大分県北部）の歴史資産を地域住民に再確認してもらうために、中津街道史跡探索ウォークの日に合わせて歴史講演会等による学習会を開催しています。令和4年度は、講師に山内公二氏、島藤寿敏氏を招き、江戸期の菱谷平七の旅日記「筑紫紀行」を学ぶ歴史講演会を豊前市民会館にて開催しました。



2023/12/17

中津街道史跡探索 ウォークとバスツアー

中津街道の歴史を体感するとともに地域資源活用を探る探索ウォークを毎月1回開催しています。実際に街道を参加者と歩き、奈良時代から現代に至る史跡を訪ね体感するとともに、歴史遺産の現状を共有。1/10000の地図を配布し、小倉～中津駅の間の各駅を1年半かけて開催しています。また、豊前の街道をゆく会で他の街道や史跡巡りを中心にバスツアーを実施しています。



2023/05/20



2023/11/05

標柱の設置



「豊の国歴史ロマン街道」と小倉～宇佐間の歴史的構造物や自然遺産を地域の方々にもっと知つてもらうために、九州初の試みとしてルート標柱（計40基、常盤橋、中津城、宇佐神宮、網敷天満宮など）を設置しています。平成23年度から標柱の設置を開始し、設置された標柱は、中津街道史跡探索ウォークの目印としても活用されています。当初、設置期限は10年とされていましたが、地元関係者の協力のもと、期間の延伸について管理者と協議の上、覚書きを作成しています。一部の標柱については、通行の障害とならないよう新たな場所へ移設しています。

私たちは、旧豊前國の小倉から宇佐までに現存する歴史景観と自然遺産を地域の方々にもっと知つてもらうために、風景街道活動を続けています。当街道には、和氣清麻呂・菅原道真・黒田官兵衛・福澤諭吉の史跡があり、この歴史の共通認識に立つて、地域間の連携を深めます。

さらに東九州道の開通に伴い、当地域への観光を広めるなど、北九州一大分間の発展に寄与ていきたいと願っています。

子供神楽「あだち」

伝統文化伝承の一環として、毎年4月北九州市小倉北区の妙見神社で妙見宮桜まつりとあわせ、足立山麓文化村制作の子供神楽「あだち」が行われます。地元の小学生が華麗な舞を披露し、毎年多くの方が観覧しています。

豊の国風景街道推進協議会 会長
山内 公二さん



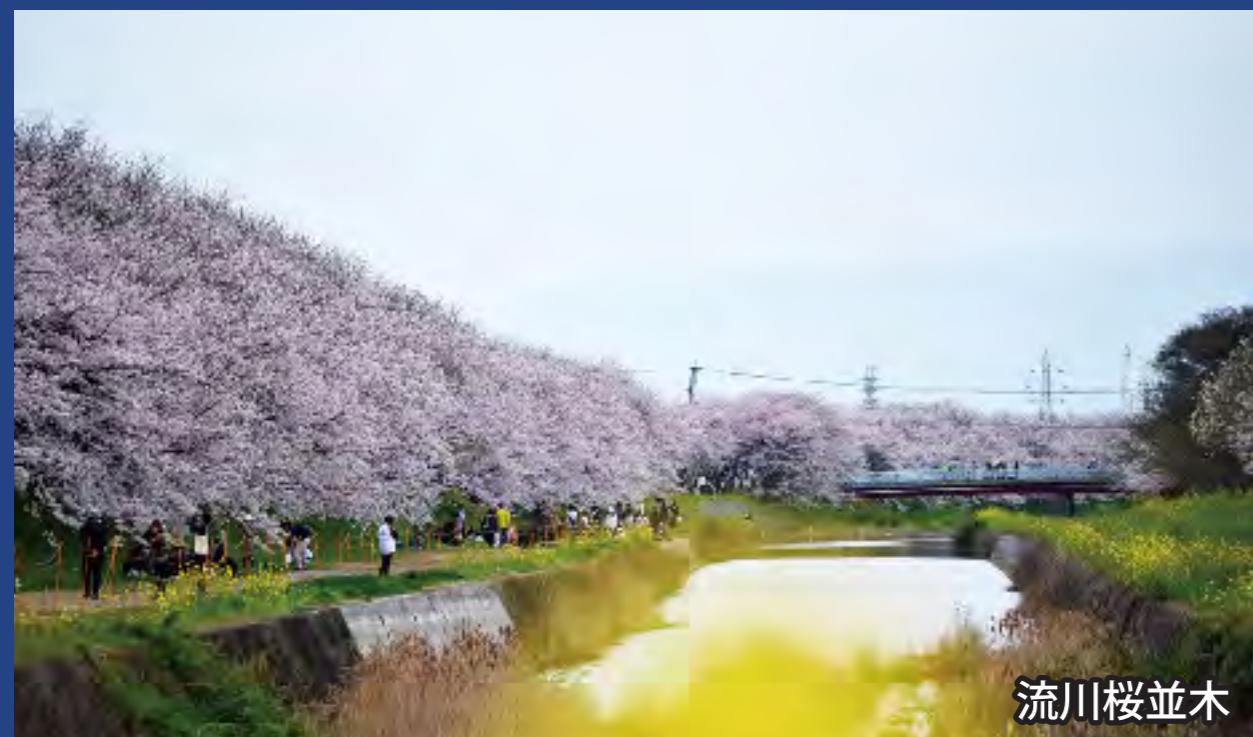
GREEN VILLAGE IN MINOU MOUNTAINS

みどりの里・耳納風景街道



耳納連山と大河筑後川が織りなす「里の風景画」

南には屏風のように連なる耳納の山々と、北には豊かな水が流れる九州一の大河筑後川に囲まれ、東西に走る旧街道日田往還等を軸として、自然と歴史・文化に育まれてきたルート。耳納連山から筑後川へと広がる空間が東西に延びていく情景は、まさに自然の回廊。今も古代の王の墓、吉井町の白壁土蔵や、草野町の風情あふれるまちなみが当時の面影を偲ばせます。この地域は、植木・苗木や果樹の生産も盛んで、久留米つばき、久留米つつじ、巨峰が有名。そして約400年前より続く棚田等、代々受け継がれた文化的遺産や祭りも多く残されており、訪れる人々をこよなく魅了してやみません。



活動のご紹介

風景街道を活かしたイベント開催



「風景街道よりみちどころ」の各協力店が考案したジェラートをはしごしながら楽しむ「ジェラート総選挙」を開催しています。その他にも、「耳納風景街道サイクリングスタンプラリー」や、久留米市草野町の歴史・伝統文化を紹介する「草野まちかど博物館」を開催するなど、風景街道を活かした多様なイベントを開催しています。

久留米つばきフェア

久留米市は、全国有数のツバキ苗の生産地です。平成22年3月には久留米つばき園と石橋文化センターツバキ園の2つの園が「国際優秀ツバキ園」に認定され、令和2年3月に10年間の認定期間を経て再認定されました。世界に認められた2つのつばき園と、久留米市世界のつばき館を主会場に久留米つばきフェアを開催しています。また同時に、「草野の歴史とつばきの花めぐり」を開催しており、草野町一帯を会場として、寺社・庭園等の一般公開や、草野町の歴史とつばきの名所を地元の案内ガイドと巡るガイドウォーキング、草野まちめぐりスタンプラリー、特産品販売の「まちかど市」などを開催しています。



コスモスで訪れる人をおもてなし (国道210号コスモス街道)



国道210号バイパスの沿道、約3kmの中央分離帯にコスモスを植栽。この活動によりゴミの投げ捨てが減少し、景観づくりに貢献しています。



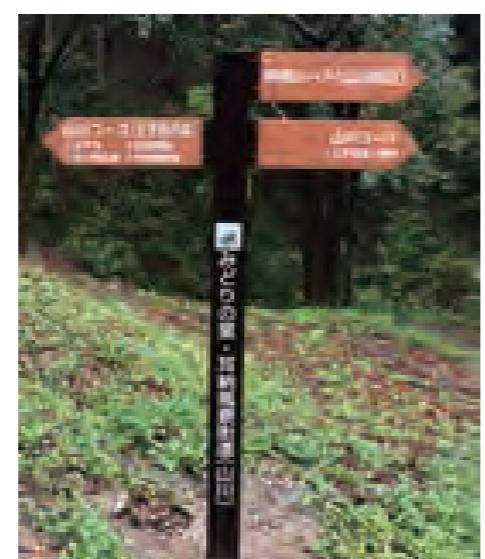
千年地区自治協議会では、校区内を東西に走る国道210号バイパス沿い約3キロに渡ってコスモスを植栽しています。うきは市を訪れる方々へのおもてなしの心で始めた活動です。コスモスが満開になる10月には、地元の小学生とともに「福祉・コスモス祭り」を開催しています。



みどりの里・耳納風景街道推進協議会
(元)会長 家永 重信さん

散策ルート作り… 久留米市東部地域

耳納北麓5校区（山川・山本・草野・竹野・水縄）のまちづくり振興会は、久留米市と協働して地域の歴史・文化等の資源と併せて、自然環境に恵まれた花や緑、里山、展望スポット等、点在する魅力ある資源と地域の特性や季節の魅力を活かした散策ルートづくりを行っています。耳納北麓を現在、東西に繋ぐ、幹線ルート約20km及び校区の魅力あるルートづくりを進めています。是非、耳納北麓地域のすばらしさを、散策により堪能してみてください。



みどりの里・ 耳納風景街道マップの製作



推進協議会の設立当初から、「みどりの里・耳納風景街道マップ」を製作・配布しています。久留米市東部～うきは市までが掲載された便利なマップには、「風景街道よりみちどころ」など、地元がおススメするお店や施設などの情報が盛りだくさんです。

地域資源を守り、育む



くつづら棚田…うきは市
「くつづら棚田」は、日本棚田百選にも選ばれた貴重な棚田であり、彼岸花の咲く頃には、山村の原風景を求めて多くの方が訪れます。近年、耕作されていない棚田の存在が問題となっている中、近隣の有志で結成された「くつづら棚田を守る会」は、棚田オーナー制度等の支援活動に協力し、景観を守る活動を行っています。また、棚田inうきは彼岸花めぐり＆ばさら祭りを開催し、そのイベントの中で棚田協力金を募り、景観保全活動等に活用したり、地元の特産品直売や「かかしコンテスト」、「ばさらツアーバス」等を開催したりしています。



OITA SEASIDE ROAD

おおいた海べの道

日本一の温泉と半島めぐりでリフレッシュ

東の津久見市から西へ国東半島を廻り、別府湾岸を中心に世界農業遺産の国東半島の海岸線をぐるりと廻る美しい自然景観と、歴史・文化の魅力たっぷりなルート。「只今 100 匹」の野生ニホンザルの高崎山、水族館「うみたまご」、世界有数の湯けむりの別府温泉とガイドの八湯ウォーク、城下町の風情を今に残す日出町と杵築市街、六郷満山の国東市に、真玉の夕日と昭和の街・豊後高田市、全国 4 万社余りの八幡宮の総本宮である宇佐神宮がある宇佐市、紅葉の名所白馬渓の臼杵市、大友宗麟墓地公園を有する津久見市等、見逃せない観光スポット満載。さらに佐賀関の関さば・関あじ、大分市内のふぐ料理、日出町の城下かれいと、「海べ」の名にふさわしく、海の幸がいたる所に。大分出身の歌手松原のふえ・花岡優平の「海べの道応援曲・しあわせの旅路」にのって海べのドライブを。



OITA

大分



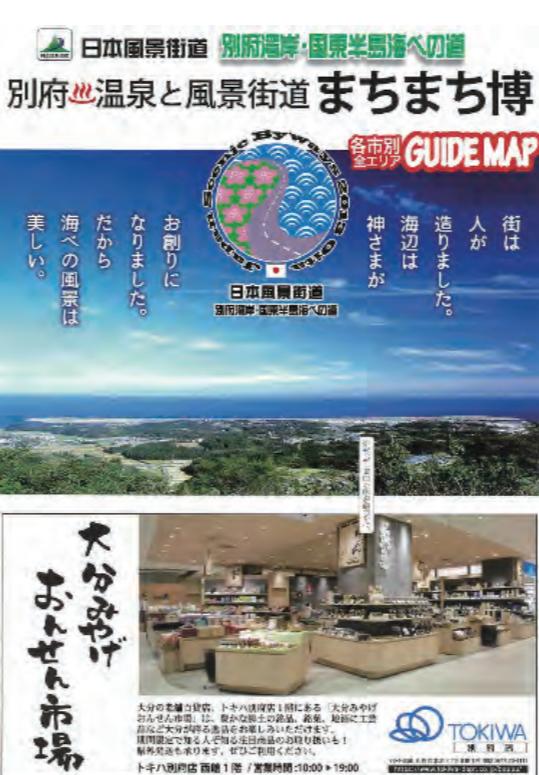
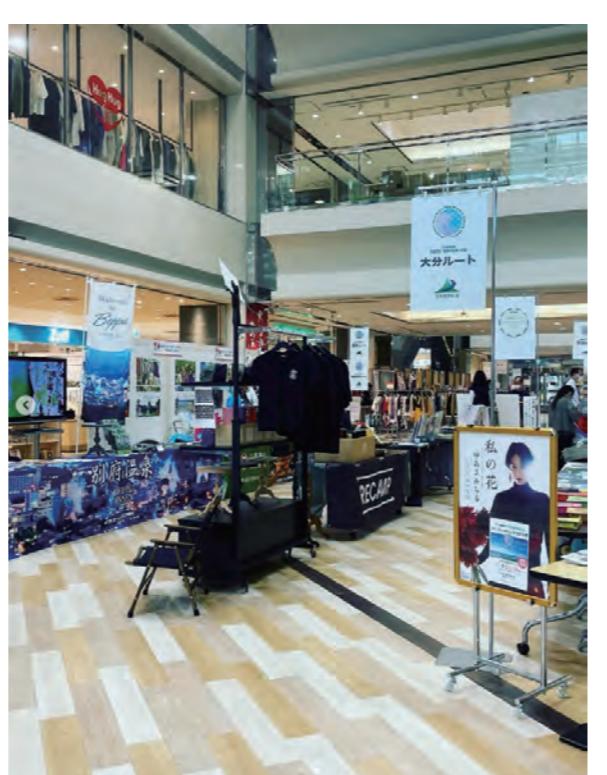
活動のご紹介

シンポジウム・みちづくし



「道」を通じて地域づくりに貢献する日本風景街道・道守・道の駅が、三者のそれぞれの特性を活かしながらも緩やかな連携によって、更なる地域貢献が出来ないかという方向性を話し合うシンポジウム『語ろう!みんなで!「3つの輪』』を継続開催しています。令和 5 年度の議題は「防災」。令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震を受けて、今自分たちにできること、いざというときのための備えを考える会となりました。また、毎年 400 人前後の道守・風景街道・行政関係者等が集まる「みちづくし」では、活動内容の共有等、交流を促進しています。

道を通じた地域連携の発展



地域連携の発展を目的として、観光振興キャンペーン「別府温泉と風景街道まちまち博」を開催しています。おおいた海べの道推進協議会の主催で、ルート沿線 9 市町(大分、別府、日出、杵築、国東、豊後高田、津久見、臼杵、宇佐)による観光 PR や、弁当・海産物を中心とした特産品の販売等の観光物産展を実施しています。開催期間中は、トークセッションやライブなども開催しています。

海を守ろうキャンペーン

海べの環境・景観を守るために、海ゴミ問題の啓発活動を実施しています。また、ルート沿線市町の海岸で清掃活動を実施しています。



オリジナル紙芝居「海を守ろう」を用いて、別府関の江海開き等の場で清掃活動参加者や海岸利用者等に海ゴミ問題を解説しており、小学校などへの出前授業も実施しています。製作したオリジナル紙芝居は、他ルートにも配付し、「ながさきサンセットロード」や「島原半島うみやま街道」でも、この紙芝居が活用され、ルート間の連携が進展しています。プラごみに関する啓発看板(1×2m)を製作し、別府市関の江海水浴場、別大国道に設置しています。



日本世間遺産学会



何気ないけれど感じ入る風景を「世間遺産」と称して、大分県各地で世間遺産を巡るまちあるきを行い、撮影や世間遺産を語り合う活動を行っています。「日本世間遺産学会」は、平成 30 年から開催しています。

サイクリツーリズムの推進

本ルートエリアでは、別府湾岸の景観を取り組んできました。近年は、瀬戸内海を囲む愛媛・広島・山口・福岡・大分の 5 県が瀬戸内海をめぐるサイクリツーリズムの更なる発展に向けて、連携を進めています。

また、豊後水道を挟んだ愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ約 70km のサイクルコースが世界の自転車ファンを魅了し、人気を集めていることに着目し、連携して取組みを進めています。





AMAKUSA ISLANDS DRIVE

あまくさ風景街道

美しいサンセットと南蛮文化やキリシタンの歴史を伝える街道

天草地域は熊本県の南西部に位置する島々で、周囲を東シナ海・有明海・八代海という3つの海に浮かぶ多島海である。美しい青い海に浮かぶ大小さまざまな島や緑深い山々などが織り成す雄大な景観をはじめ、季節を問わず一年中楽しむことのできるイルカウォッチング、南蛮文化やキリシタンの歴史を伝える施設などがあり、自然と文化に育まれた島となっています。

「あまくさ風景街道」は、その風光明媚な天草の海洋景観を走る道路の中でも、東シナ海・有明海側の「夕日」をキーワードにして、天草を代表する愛着のある主要道路を結ぶルートとなっております。



活動のご紹介

美しい天草の街道づくり



天草の美しい海洋景観や風光明媚な漁港や島々を走る海沿いの国道を日本風景街道と位置づけ、景観維持に努めながら、花等の植栽、美化活動をとおして、美しい天草の街道を創成します。

ボランティア花壇事業

天草市有明町須子地区の国道324号沿線にある植樹帯及び民有地に季節の花を植栽し、観光客などへ花によるおもてなしを行っています。

また、花の植栽以外にも、特定外来生物とされている「オオキンケイギク」の駆除など、地域が一体となって国道沿線の良好な景観の形成に寄与しています。平成24年度からは、天草市・上天草市・苓北町の2市1町で主要道路を中心に、一斉除草のボランティア活動を展開しています。一斉除草を同日実施することで、美しい道路景観に対する機運醸成を地域全体で育むとともに、観光客へのおもてなしの取組へと発展しています。なお、活動については県のロード・クリーン・ボランティア事業及び天草花咲プロジェクト事業からの支援を活用しています。



花づくり教室事業

地域からの花づくりの普及・啓発、人材育成・技術支援を目的に、天草市と各町公民館・地区振興会及びボランティア団体等との協働により、年3回程度、花づくり教室を開催しています。併せて、道路沿線の花壇を地域で維持管理することで、自主的な花づくり活動を推進しています。

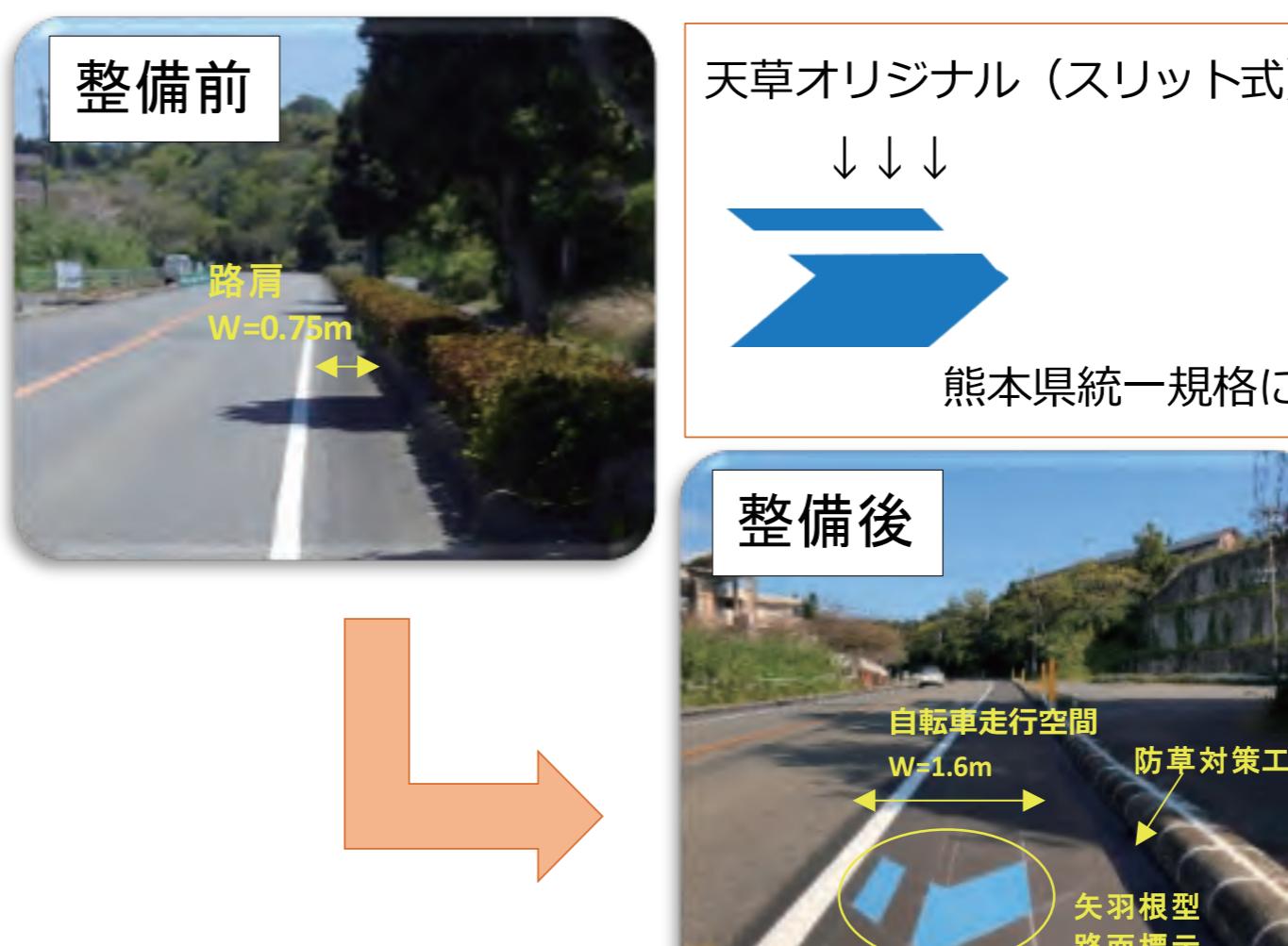
おもてなしの一斉清掃



天草市・上天草市・苓北町、2市1町の主要道路（国道266号、国道324号、国道389号 計279km）における天草全域一斉除草を平成24年度から実施しています。美しい道路景観に対する機運の醸成を地域全体で育むとともに、訪れる観光客へのおもてなしの取組へと発展。人を呼び込む工夫と天草全域への活動の呼びかけで、地域の協力体制の構築と連帯感の創出にも寄与しています。

サイクリング

天草上島・下島サイクリングコースに矢羽根・ピクトグラムを塗布しています。矢羽根のデザインは、実際のサイクリングに詳しい地元サイクリング団体の意見を熊本県が反映し、矢羽根の段差を回避して自転車が走行するためのスリットを入れるなどの工夫を行い、熊本県の統一規格として使用しています。令和4年度は、「AMAKUSAを走りきれ! 2022」を開催しました。その中で、距離競技系の「走る走るチャレンジ」とデジタルスタンプラリー「まわるまわるチャレンジ」の2種類のイベントを開催しました。





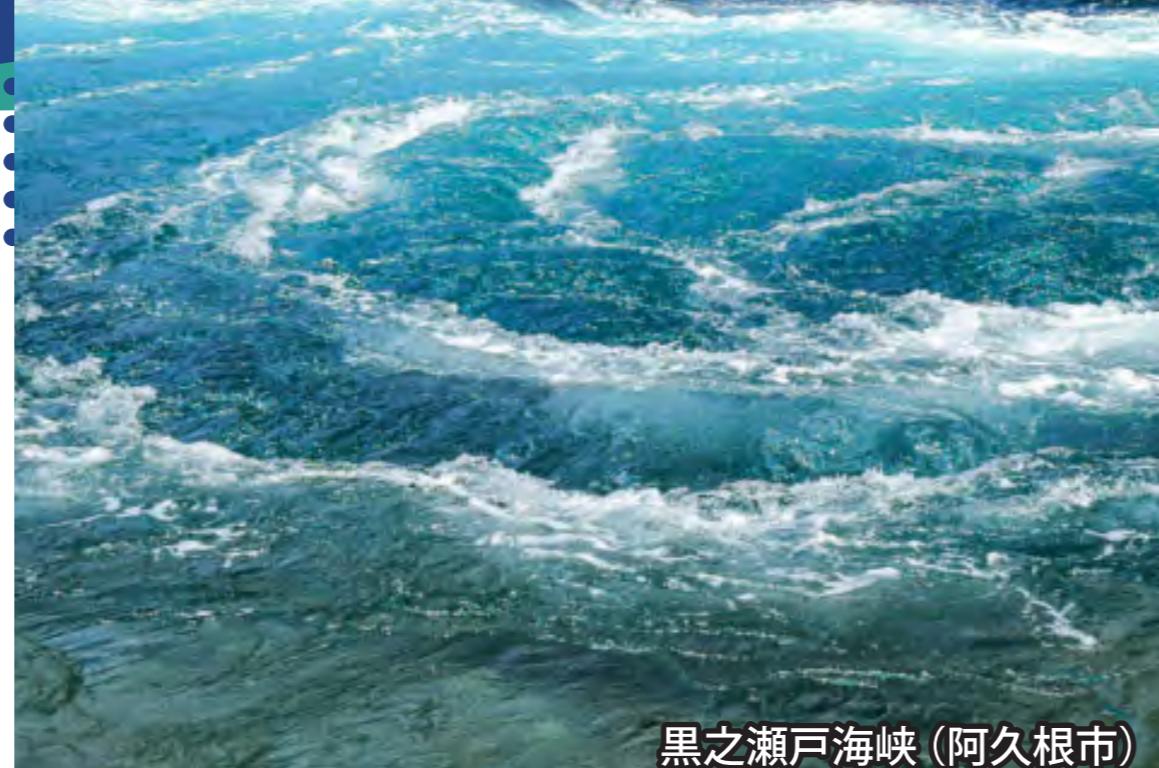
NORTH SATSUMA SCENIC TOUR

薩摩よりみち風景街道

藩政時代からの歴史遺産とダイナミックな自然景観が魅力的

藩政時代から、鹿児島県内は、歴史・文化の面で深く繋がっており、海岸道路の沿線は、武家屋敷や国分寺跡などの薩摩の歴史や文化を伝える名勝史跡が数多く残っています。

また、地形の変化の美しい甑島、黒之瀬戸など日本三大急潮流の景勝地や東シナ海を背景にした「人形岩」や「ナポレオン岩」などのダイナミックな美しい自然景観も見ることができます。赤土バレイショ・養殖ブリ・みかん・芋焼酎・阿久根ボンタンなど特産品が豊かであることもこの地域の魅力。



活動のご紹介

美しい薩摩の街道づくり

北薩地域の恵まれた自然景観を守る



薩摩の美しい海岸線付近を通る道路を風景街道と位置づけ、美しい景観を維持しながら花の植栽、清掃作業を行い、美しき街道を創成しています。また、ルートの知名度向上に向けて案内立て看板を沿線に設置するなど、魅力ある地域資源をさらに引き立てる取り組みを展開しています。



地域の活性化・観光の振興

薩摩の歴史的文化遺産などを活かす

薩摩の多様な主体による協働のもと、個々の景観や自然、歴史、文化・交流、施設・情報などの資源を活かし、更なる質の向上を図る活動を展開しています。近年は、長崎県や熊本県などの近隣ルートとの勉強会の開催や北海道の「釧路湿原・阿寒、摩周シニックバイウェイ」と共に歴史上の人物を切り口としたセミナーや将来にわたる持続的な交流関係の構築を図ることを目的とした意見交換会を開催するなど、他ルートとの交流も活発化しています。



観光資源間の連携

食・物の連携で観光の魅力を高める



これまでに整理されている資源に加え、他の観光資源（飲食・物販）との連動によるまちあるき型観光資源の発掘・開発をし、観光の魅力の向上につなげています。



観光農園（日置市）

豊富な海の幸

薩摩よりみち風景街道は、まさに南九州西回り自動車道のバイウェイ、寄り道です。過疎化が進むこの地域には、多様な観光資源やイベントがあり、それを担う人々がいます。5市1町という広域におよぶ薩摩の西海岸周辺を通る道路を風景街道と位置づけ、それぞれの資源同士のネットワーク化を図ることで地域の一体感を創出し、多くの人々に訪れていただけるよう、温かいおもてなしの心を感じて頂ける風景街道に磨き上げます。

薩摩よりみち風景街道協議会
副会長 田島 直美さん





UMI-YAMA SCENIC BYWAYS IN SHIMABARA PENINSULA

島原半島うみやま街道



歴史と水と温泉のまち

日本風景街道「島原半島うみやま街道」は、長崎県の島原半島全域をエリアとし、国道57号、251号、389号、全長約194kmを主なルートとしています。

島原半島は、中央部に雲仙普賢岳及び平成新山が聳え立ち、東は有明の海、西は夕日が映える橘湾、北側は干潟の諫早湾と周囲を海に囲まれており、自然豊かな景観を楽しむことができます。



活動のご紹介

島原半島全域での一斉清掃



観光客に気持ちよく島原半島を観光・体感してもらうため、パートナーシップ構成団体等が同時参加できる一斉イベントを島原半島全域で毎年開催しています。清掃活動前には、参加者に対して、ルートの説明や海洋ゴミに関する啓発活動も実施しています。また、ながさきサンセットロードの一斉清掃に合わせて、2ルート同時に実施することにより、PR効果を高め「日本風景街道」の認知度向上に貢献しています。令和3年度からは、長崎文化放送が企画する「NEXTながさきゴミゼロプロジェクト」の取り組みの一つにも位置付けられています。

伝統漁法と海岸風景の継承(スカイまつり)



島原市長浜海岸では、伝統漁法であるスカイ（遠浅の海岸に石を積み、潮の干満差を利用して魚などを獲る漁法）の体験イベント「スカイまつり」が開催されています。この「スカイ」は歴史的にも価値がある活動で、子供たちの教育の観点からも有意義なものです。イベントを主催している「みんなでスカイを造ろう会」はパートナーシップ構成団体であり、海岸周辺の清掃活動やスカイの修復作業など、スカイを次世代に残し伝える活動を行っています。

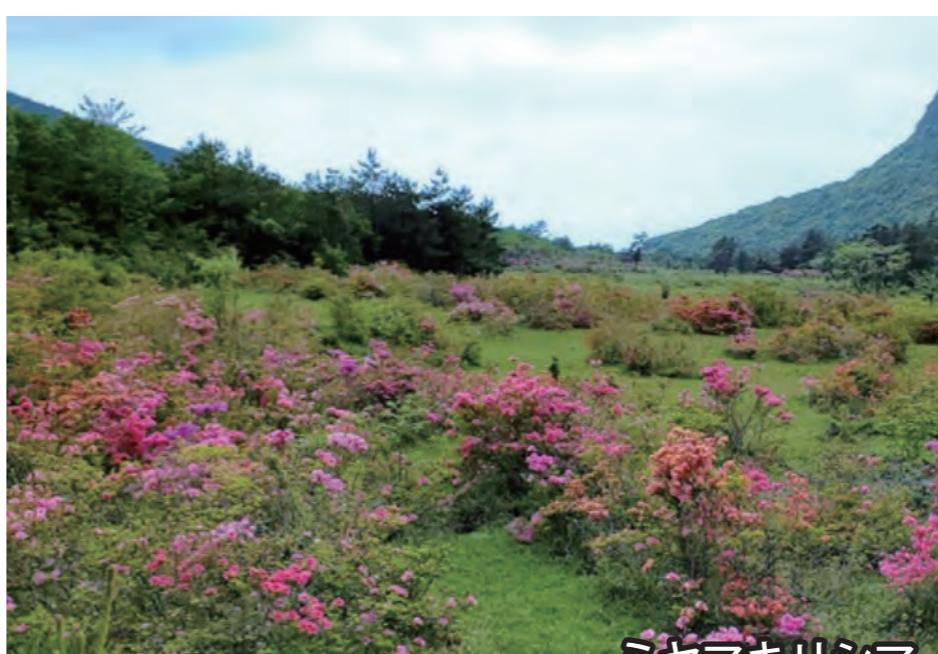
南島原ガイドの会有馬の郷



南島原ではキリスト教の伝来、繁栄、弾圧と3つの時代を見ることができます。「史跡ガイド」や「まち歩きガイド」など歴史に詳しい方も少し苦手な方もお客様のご要望に応じて地元ガイドがわかりやすくご案内します。

ミヤマキリシマの保全活動・ジャカランダの植栽活動

奥雲仙の自然環境美化の活動のひとつとして、「NPO 奥雲仙の自然を守る会」によりミヤマキリシマを再生する保全活動が行われています。絶滅危惧種の再生・研究開発を行うこの活動は、歴史的にも有意義なものであり、学識者も関与しており学術的にも有意義な活動です。また、雲仙小浜町のボランティア団体「小浜温泉57」により、小浜温泉街周辺の地域一帯でジャカランダの植樹や管理をしています。小浜温泉街沿いの国道57号では街路樹にジャカランダを植樹し「ジャカランダ通り」と名付けられています。この活動は令和3年度に、自然や歴史などを活用した優れた地域づくりの取り組みとして、国土交通大臣が表彰する「手づくり郷土賞」に選ばれています。

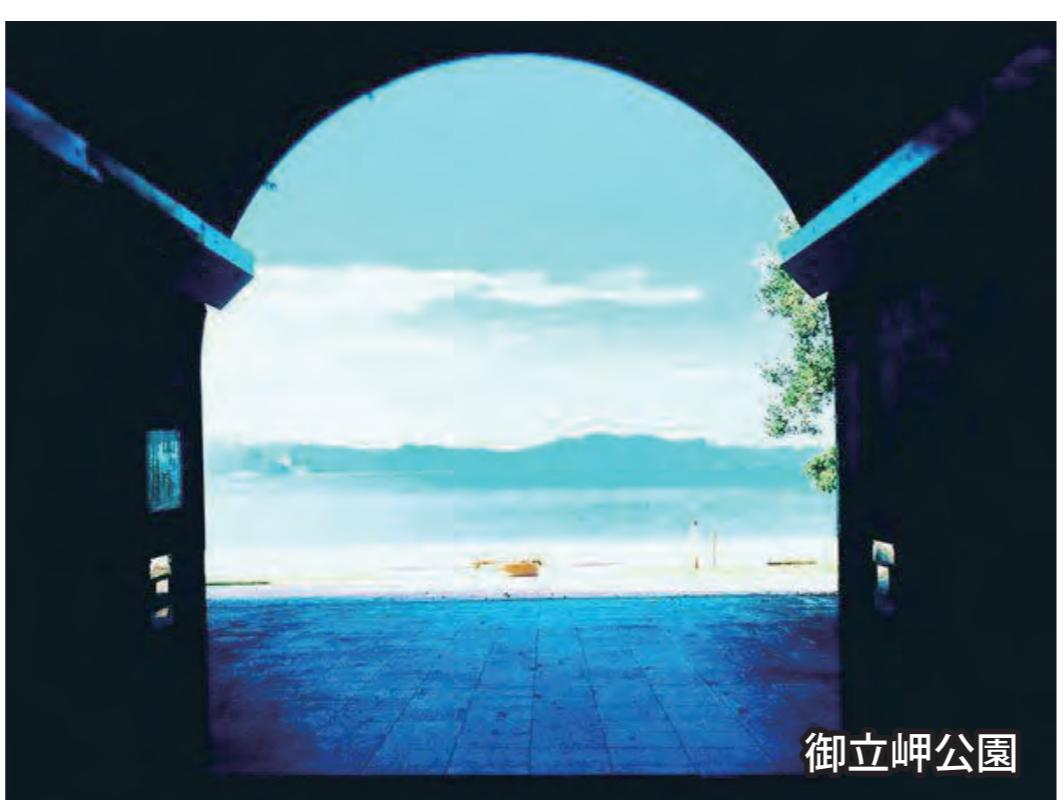




神秘の火「不知火」街道（仮称）



宇城市、八代市、芦北町、水俣市などが位置する熊本県南地域では、田園風景や不知火海の自然景観が楽しめます。海にも山にも地域資源があり、それぞれの気候や土地柄に合わせて新鮮な海産物やデコポン等の柑橘類が多くとれることが有名です。また歴史にも深く、水島や八代神社、日奈久温泉など、昔から変わらない景色を散策しながら楽しめる魅力があります。



方向性のイメージ

新たな連携 鉄道 × バイウェイ

移動需要を、様々な交通手段の特性を生かし組み合わせるモーダル MIX

【楽しもう!】

地域資源を楽しむ体験型活動から、ワクワクする風景街道へ

【次世代・未来へ】

大学生から小学生まで、未来を担う人々とコラボレーション

【つなげよう!】

活動を通して人と地域がつながり、原風景を守る・育む・活かす!

風景街道としての取組イメージ



沿線地域の
活動団体との連携

地域資源



活力ある
地域づくり

美しい
景観づくり

熊本県及び沿線自治体との連携



肥薩おれんじ鉄道との連携